

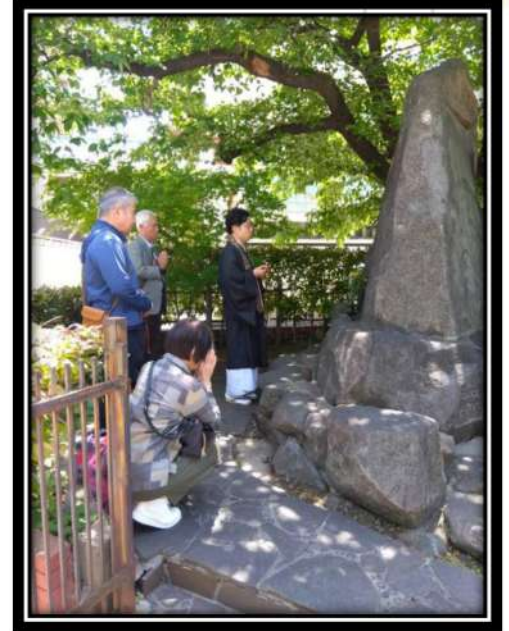
野田村二十一人討死

証如上人御消息披露法要

講師 小林 顯英 先生

2025. 5. 8(木)

講題 「ほとけはつねに」



法要が始まる前に、コミュニティの碑の前で総代さんをはじめ、御門徒さんと一緒に『讃仏偈』のおつとめをしました。



碑の前でのおつとめが終わったらお寺に戻り、証如上人の御消息に間違いがないか、確認を総代さんで行います。コミュニティの碑の前で一緒におつとめをした役員の方にも見ていただきました。達筆過ぎて所々しか読めませんが、証如上人が17~18歳で認められたお手紙で、逃げる舟の上で書かれたものと伝えられています。もう一つの巻物は縁起が書かれた古文書です。



本日は当山院主が体調不良のため、若院が登礼盤しました。おつとめは「仏説阿弥陀經」御法中の皆様に支えられながら無事務めさせていただきました。



総代の青木さんが古文書を高座まで運んでくださいます。そして若院が高座にて、まず縁起の古文書を読み上げます。続いて、證如上人の御消息の拝読です。お念仏相続のため命をかけて證如上人を守り抜いて亡くなられた二十一人の方への感謝とこの事実を忘れることなく後世へと語り継いで欲しい旨が記された證如上人直筆のものです。約490年前の出来事と当時のそのままの御消息です。今まで途切れることなくお念仏相続されてきたことにただただ頭が下がります。



縁起の拝読では、縁起をわかりやすくまとめたものを見ながら拝聴しました。

誕生とは、嘘偽りの世界に生まれるという意味ですが、阿弥陀様の教えに出遇えるところに生まれさせていただいたことに有難いと喜ばせていただくのがお誕生日おめでとうと味わうのが浄土真宗のお味わいとお聞かせくださいました。

条件なしにそのままのわたしをお救い下さるのが阿弥陀様です。報恩感謝、恩徳讃にも使われる「恩」のわかりやすい説明もしてくださいました。その恩もすぐ忘れ、かけた情けばかりを覚えている私です。そんな私を飽きることなく、諦めることなく、見捨てることなく、いつでも私を包み込んで下さる阿弥陀様。いつでもともに。声の仏になって私の口から出て下さる南無阿弥陀仏。お聴聞後はただただお念仏が出てくださいました。



お聴聞の後にはくじ引きも。ペットボトルの底に仕込んだナンバーに皆さん驚いて下さったようで！今回は番号関係なしの当たりを作ったので少し楽しんでいただけたのではないのでしょうか。この度の法要は約490年続いた法要です。これからも皆様と共に大切にし、お念仏相続のお手伝い出来るよう励んで参りたいと思います。本日はようこそこの御参詣でございました。有難うございました。